

日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

#2 Y. Kobayashi
September 1, 1998
Q55674
104



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
る事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
in this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application:

1998年 9月 9日

願 番 号
Application Number:

平成10年特許願第255814号

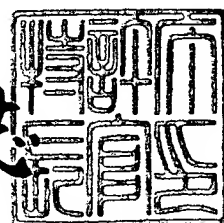
願 人
Applicant(s):

日本電気株式会社

1999年 6月25日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

山 建 志



【書類名】 特許願

【整理番号】 42010039

【提出日】 平成10年 9月 9日

【あて先】 特許庁 長官殿

【国際特許分類】 H04M 1/27

【発明の名称】 電話帳アドレス記憶方法及び電話機能を有する情報端末

【請求項の数】 22

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株式会社内

 【氏名】 小林 佳和

【特許出願人】

 【識別番号】 000004237

 【氏名又は名称】 日本電気株式会社

 【代表者】 金子 尚志

【代理人】

 【識別番号】 100105511

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 鈴木 康夫

【代理人】

 【識別番号】 100109771

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 白田 保伸

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 055457

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9711687

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 電話帳アドレス記憶方法及び電話機能を有する情報端末

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 複数のウィンドウ画面をディスプレイに表示できるオペレーションシステム（OS）を有し、電話機能を備えた情報端末による電話帳アドレス記憶方法において、

前記 OS で起動されるウィンドウ画面上で文字情報を選択し、該選択された文字情報を記憶し、

前記選択されて記憶された文字情報から電話番号を抽出し、該抽出した電話番号によって回線に発信するとともに、前記選択された全ての文字情報を電話帳アドレス記憶部に転送して記憶することを特徴とする電話帳アドレス記憶方法。

【請求項 2】 複数のウィンドウ画面をディスプレイに表示できるオペレーションシステム（OS）を有し、電話機能を備えた情報端末による電話帳アドレス記憶方法において、

電話発信を制御するための第 1 のウィンドウを表示し、

前記第 1 のウィンドウとは別に前記 OS で起動され表示されている第 2 のウィンドウ上で文字情報を選択し、該選択された文字情報を記憶し、

前記記憶された文字情報から電話番号を抽出して前記第 1 のウィンドウに表示し、該第 1 のウィンドウに表示された電話番号によって回線に発信するとともに、前記選択された全ての文字情報を電話帳アドレス記憶部に転送して記憶することを特徴とする電話帳アドレス記憶方法。

【請求項 3】 前記第 2 のウィンドウ上に表示されている受信情報から選択された文字情報を記憶し、該記憶された文字情報を前記電話帳アドレス記憶部に転送して記憶することを特徴とする請求項 2 記載の電話帳アドレス記憶方法。

【請求項 4】 前記電話帳アドレス記憶部に記憶された文字情報を読み出し、該読み出した文字情報から電話番号を抽出し、該抽出した電話番号によって回線に発信することを特徴とする請求項 1 または 2 記載の電話帳アドレス記憶方法。

【請求項 5】 前記電話帳アドレス記憶部は、複数の項目欄に区分けされて

おり、前記選択された文字情報から前記各項目に対応する文字情報を抽出し、該当する前記項目欄に転送して記憶することを特徴とする請求項 1 または 2 記載の電話帳アドレス記憶方法。

【請求項 6】 前記電話帳アドレス記憶部には、履歴欄が設けられており、発信操作がなされたとき、または操作部からの文字入力により、該当する電話番号の履歴欄に履歴情報を記憶することを特徴とする請求項 1 または 2 記載の電話帳アドレス記憶方法。

【請求項 7】 複数のウインドウ画面をディスプレイに表示できるオペレーションシステム（OS）を有する情報端末において、

前記 OS で起動されているウインドウ画面上に表示されている文字情報を選択する文字情報選択手段と、

前記文字情報選択手段によって選択された文字情報を記憶する記憶手段と、

前記記憶手段に記憶された前記文字情報から電話番号を抽出する手段と、

前記電話番号を抽出する手段によって抽出された電話番号を電話回線への発信のために出力する手段と、

前記記憶手段に記憶された前記文字情報を、アドレス情報として記憶する電話帳アドレス記憶手段を備えていることを特徴とする電話機能を有する情報端末。

【請求項 8】 複数のウインドウ画面をディスプレイに表示できるオペレーションシステム（OS）を有する情報端末において、

電話発信を制御するための第 1 のウインドウを表示する手段と、

前記 OS で起動され、第 2 のウインドウを表示する手段と、

前記第 2 のウインドウ画面上に表示されている文字情報を選択する文字情報選択手段と、

前記文字情報選択手段によって選択された文字情報を記憶する記憶手段と、

前記記憶手段に記憶された前記文字情報から電話番号を抽出して前記第 1 のウインドウに表示する手段と、

前記第 1 のウインドウに表示された電話番号を電話回線への発信のために出力する手段と、

前記記憶手段に記憶された前記文字情報を、アドレス情報として記憶する電話

帳アドレス記憶手段を備えていることを特徴とする電話機能を有する情報端末。

【請求項 9】 受信情報を前記第 2 のウィンドウ上に表示する手段と、

前記第 2 のウィンドウ画面上に表示されている受信情報から文字情報を選択する文字情報選択手段と、

前記文字情報選択手段によって選択された文字情報を記憶する記憶手段と、

前記記憶手段に記憶された前記文字情報をアドレス情報として記憶する電話帳アドレス記憶手段を備えていることを特徴とする請求項 8 記載の電話機能を有する情報端末。

【請求項 10】 前記電話帳アドレス記憶手段に記憶された文字情報を読み出し、該読み出した文字情報から電話番号を抽出し、該抽出した電話番号によって回線に発信する手段を備えていることを特徴とする請求項 7 または 8 記載の電話機能を有する情報端末。

【請求項 11】 前記電話帳アドレス記憶手段は一つ以上の項目欄に区分けされており、前記選択された文字情報から前記各項目に対応する文字情報を抽出し、該当する前記項目欄に転送して記憶する項目比較メモリ手段を備えていることを特徴とする請求項 7～9 の何れかに記載の電話機能を有する情報端末。

【請求項 12】 前記項目比較メモリ手段は、前記項目に関連する文字を記憶しており、前記文字情報選択手段によって選択された文字情報に数字以外の文字列が含まれる場合に、前記項目比較メモリ手段に記憶されている前記文字と比較し、一致する文字が含まれている場合、前記文字列を前記アドレス記憶手段の該当する項目欄に記憶する手段を備えていることを特徴とする請求項 11 記載の電話機能を有する情報端末。

【請求項 13】 前記項目比較メモリ手段として、住所比較メモリ部を備えており、前記第 2 のウィンドウから取り込んだ文字列に数字以外の文字列が含まれる場合、前記住所比較メモリ部に登録されたあらかじめ定めた所定の文字と比較し、一致する文字が含まれている場合、その文字列を前記電話帳アドレス記憶部の住所欄に記憶することを特徴とする請求項 12 記載の電話機能を有する情報端末。

【請求項 14】 前記項目比較メモリ手段として、名前比較メモリ部を備え

ており、前記第2のウィンドウから取り込んだ文字列に数字以外の文字列が含まれる場合、前記名前比較メモリ部に登録されたあらかじめ定めた所定の文字と比較し、一致する文字が含まれている場合、その文字列を前記電話帳アドレス記憶部の名前欄に記憶することを特徴とする請求項12記載の電話機能を有する情報端末。

【請求項15】 前記項目比較メモリ手段として、役職比較メモリ部を備えており、前記第2のウィンドウから取り込んだ文字列に数字以外の文字列が含まれる場合、前記役職比較メモリ部に登録されたあらかじめ定めた所定の文字と比較し、一致する文字が含まれている場合、その文字列を前記電話帳アドレス記憶部の役職欄に記憶することを特徴とする請求項12記載の電話機能を有する情報端末。

【請求項16】 前記項目比較メモリ手段として、メール比較メモリ部を備えており、前記第2のウィンドウから取り込んだ文字列に数字以外の文字列が含まれる場合、前記メール比較メモリ部に登録されたあらかじめ定めた所定の文字と比較し、一致する文字が含まれている場合、その文字列を前記電話帳アドレス記憶部のメール欄に記憶することを特徴とする請求項12記載の電話機能を有する情報端末。

【請求項17】 前記項目比較メモリ手段として、FAX比較メモリ部を備えており、前記第2のウィンドウから取り込んだ文字列に数字以外の文字列が含まれる場合、前記FAX比較メモリ部に登録されたあらかじめ定めた所定の文字と比較し、一致する文字が含まれている場合、その文字列を前記電話帳アドレス記憶部のFAX欄に記憶することを特徴とする請求項12記載の電話機能を有する情報端末。

【請求項18】 前記項目比較メモリ手段として、部門比較メモリ部を備えており、前記第2のウィンドウから取り込んだ文字列に数字以外の文字列が含まれる場合、前記部門比較メモリ部に登録されたあらかじめ定めた所定の文字と比較し、一致する文字が含まれている場合、その文字列を前記電話帳アドレス記憶部の部門欄に記憶することを特徴とする請求項12記載の電話機能を有する情報端末。

【請求項 19】 前記項目比較メモリ手段として、社名比較メモリ部を備えており、前記第 2 のウインドウから取り込んだ文字列に数字以外の文字列が含まれる場合、前記社名比較メモリ部に登録されたあらかじめ定めた所定の文字と比較し、一致する文字が含まれている場合、その文字列を前記電話帳アドレス記憶部の社名欄に記憶することを特徴とする請求項 12 記載の電話機能を有する情報端末。

【請求項 20】 前記電話回線への発信をしたときに、発信履歴を前記電話帳アドレス記憶部の履歴欄に記憶する手段を備えていることを特徴とする請求項 7 または 8 記載の電話機能を有する情報端末。

【請求項 21】 前記発信履歴を、前記電話帳アドレス記憶部の履歴欄に、操作部から文字を入力し履歴欄記憶する手段を備えていることを特徴とする請求項 7 または 8 記載の電話機能を有する情報端末。

【請求項 22】 コンピュータに、
電話発信を制御するための第 1 のウインドウを表示する手順と、
前記第 1 のウインドウとは異なる第 2 のウインドウ上で文字情報を選択し、選択された文字情報を記憶する手順と、
前記記憶された文字情報から電話番号を抽出して前記第 1 のウインドウに表示する手順と、
前記第 1 のウインドウに表示された電話番号によって回線に発信する手順と、
前記選択された文字情報を電話帳アドレス記憶部に転送して記憶する手順を実行させるためのプログラムを記憶した記憶媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、電話回線への発信が可能な情報端末装置に関し、特にウインドウ画面を表示するためのオペレーションシステム（以下、OS と略称する）を有する情報端末装置における電話番号操作を簡便化する方式に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、複数のプログラムによって処理された表示データをウインドウによって表示するOSが存在する（例えば、マイクロソフト社のWindows 95）。このようなOSがインストールされたコンピュータのような情報端末は、電話発信のために電話回線との回線インタフェースを有するかモデムを介して回線に接続され、OSでウインドウを表示させて電話通信を行うことが可能である。

【0003】

そのような電話発信が可能な情報端末において、制御用OSの実行によって表示されているワープロ文書等のウインドウ画面（第2のウインドウ）中に表示されている電話番号を含む文字情報を抽出し、電話用OSの制御により文字情報の中から番号のみを取り出して電話発信用ウインドウ（第1のウインドウ）に表示させ、その表示させた番号によって電話回線に発信させることにより、電話番号を入力する手間を省き、簡単に素早く発信させる技術を発明し、特許出願した（特願平10-15705号）。

【0004】

図15は、上記特願平10-15705号の明細書に開示されている情報端末を示している。図において、情報端末は、電話回線Lに接続する回線インタフェース1と、全体を制御する制御回路2と、制御回路2に接続されるマウス3、キーボード4、表示メモリ5及びディスプレイ6と、回線インタフェースに接続する電話機12とからなっている。

【0005】

制御回路2は、ウインドウ表示させる基本OSと、その基本OSの基で起動する例えばワープロ用OSとを含む制御用OSを実行する制御用OS実行回路7と、電話用OSを実行する電話用OS実行回路8と、マウス3、キーボード4、表示メモリ5に接続する入出力インタフェース（I/O）9、10、11とを有する。

【0006】

電話用OS実行回路8の電話用OSは、制御用OS実行回路7の制御用OSの一部を介して回線に発信できるように構成されている。即ち、電話用OS実行回路8は、制御用OS実行回路7の表示アプリケーションを制御し、表示メモリ5

を經由してディスプレイ 6 に図 16 に示すような電話発信用ウインドウ（第 1 のウインドウ）111 を表示させる。

【0007】

また、マウス 3 またはキーボード 4 による操作によって任意のウインドウ表示画面（第 2 のウインドウ）112 中から電話発信のための文字情報 113 を抽出し、さらにその文字情報から数字情報のみを抽出し、電話番号情報として電話発信用ウインドウ 111 を表示する。

【0008】

最後に、電話発信用ウインドウ 111 の中の表示部 116 の電話番号が内線であるときには内線ボタン 117 を、また外線であるときには外線ボタン 118 をマウスでクリックする。これにより、表示部 116 に表示された番号で回線インタフェース 1 が電話回線 L に対して電話発信するように制御される。

【0009】

このようにして、制御用 OS の実行によって表示されているワープロ文書のウインドウあるいは他のウインドウ画面中に表示されている任意の電話番号情報を簡単な操作で抽出し、自動的に発信することができる。

【0010】

【発明が解決しようとする課題】

上記の特許出願において開示した情報端末によれば、電話キー画面をディスプレイ 6 上に表示させて電話番号を入力する手間が省け、簡単に素早く発信することができるが、ダイヤルの利用に文字列をクリックしたとき、クリックした文字列に含まれている住所、氏名、あるいは役職情報等はダイヤル後に廃棄されてしまい、再度同一宛先に発信する場合には、同じ文字列を再度クリックしなければならなかった。同様に、着信時に関連する文字列が表示され、その情報をクリックした場合、その中に住所、役職情報等があってもそれらの情報は廃棄されてしまう。

【0011】

また、最新型として発表されたマイクロソフト社の Windows CE の OS 使用機器においても、ダイヤルを受ける画面連携はなく、また、発信時にダイヤ

ルを掛ける画面はスケジューラや名刺管理等のそのアプリケーション内での関連付けにとどまっており、その為、電話番号はそのアプリケーション内の電話帳アドレスに記述して管理する必要があった。

【0012】

さらに、コールセンタ向け専用データベースを除いた、汎用電話帳情報と電話発信着信履歴が連動しないという問題があった。

【0013】

本発明の目的は、上記の問題点に鑑み、ダイヤルのためにクリックした文字列を活用して、情報端末装置の電話帳情報を効率的に管理することにより、更なる操作性の向上を図ることにある。

【0014】

【課題を解決するための手段】

本発明は、複数のウィンドウ画面をディスプレイに表示できるオペレーションシステム（OS）を備え、電話機能を有する情報端末において、前記OSで起動されるウィンドウ画面上に表示されている文字情報をマウス等により選択し、選択された文字情報を記憶し、この記憶された文字情報から電話番号を抽出して回線に発信するとともに、前記選択して記憶されている全ての文字情報を電話帳アドレス記憶部に転送して記憶することを特徴としている。

【0015】

すなわち、本発明は、電子手帳やパソコンに代表される情報ターミナルにおいて、表示部、記憶部、入力部、回線インタフェース部、並びに、前記表示部に閉じられた線分により区切られたウィンドウを描画する機能を有する全体をコントロールする制御部からなり、前記表示部が、他のいずれのウィンドウより最前面に表示される第1のウィンドウを描画し、他のウィンドウである第2のウィンドウ上で選択した文字列を記憶部を介して第1のウィンドウ内に取り込み、第1のウィンドウ内で発信指示を入力部より待ち、発信指示で、回線インタフェース部を介してダイヤルをする発信手段を備え、発信したダイヤルを、情報ターミナルの電話帳アドレス記憶部に記憶する手段を備えていることを特徴とする。

【0016】

また、本発明は、電子手帳やパソコンに代表される情報ターミナルにおいて、表示部、記憶部、入力部、回線インタフェース部、並びに、前記表示部に閉じられた線分により区切られたウインドウを描画する機能を有する全体をコントロールする制御部からなり、前記表示部が、他のいずれのウインドウより最前面に表示される第1のウインドウを描画し、他のウインドウである第2のウインドウ上で選択した文字列を記憶部を介して第1のウインドウ内に取り込み、第1のウインドウ内でコーラIDを回線インタフェース部より待ち、クリック指示で、回線インタフェース部を介して取得したコーラIDを表示することを特徴とする発信情報装置において取得したコーラIDを、情報ターミナルの電話帳アドレス記憶部に記憶する手段を備えていることを特徴とする。

【0017】

本発明の前記発信手段は、電話帳アドレス記憶部に記憶したアドレスを読み出してダイヤルすることができる。

【0018】

本発明の情報ターミナルは住所比較メモリ部を備えており、前記発信手段は、第2のウインドウから取り込んだ文字列に数字以外の文字列が含まれる場合、住所比較メモリ部に登録した、住所、アドレス、県、市、東京都、他あらかじめ定めた所定の文字と一致する文字が含まれている場合、その文字列を電話帳アドレス記憶部の住所欄に記憶する手段を有する。

【0019】

本発明の情報ターミナルは名前比較メモリ部を備えており、前記発信手段は、第2のウインドウから取り込んだ文字列に数字以外の文字列が含まれる場合、名前比較メモリ部に登録した、名前、Name、氏名、他あらかじめ定めた所定の文字と一致する文字が含まれている場合、それ以降の文字列を電話帳アドレス記憶部の氏名欄に記憶する手段を有する。

【0020】

本発明の情報ターミナルは役職比較メモリ部を備えており、前記発信手段は、第2のウインドウから取り込んだ文字列に数字以外の文字列が含まれる場合、役職比較メモリ部に登録した、部長、課長、マネージャ、担当他あらかじめ定めた

所定の文字と一致する文字が含まれている場合、それ以前の文字列を電話帳アドレス記憶部の役職欄に記憶する手段を有する。

【0021】

本発明の情報ターミナルはメール比較メモリ部を備えており、前記発信手段は、第2のウィンドウから取り込んだ文字列に数字以外の文字列が含まれる場合、メール比較メモリ部に登録した、@、E-Mail、メール、他あらかじめ定めた所定の文字と一致する文字が含まれている場合、その文字列を電話帳アドレス記憶部のメール欄に記憶する手段を有する。

【0022】

本発明の情報ターミナルはFAX比較メモリ部を備えており、前記発信手段は、第2のウィンドウから取り込んだ文字列に数字以外の文字列が含まれる場合、FAX比較メモリ部に登録した、FAX、ファクシミリ他あらかじめ定めた所定の文字と一致する文字が含まれている場合、それ以後の文字列を電話帳アドレス記憶部のFAX欄に記憶する手段を有する。

【0023】

本発明の情報ターミナルは部門比較メモリ部を備えており、前記発信手段は、第2のウィンドウから取り込んだ文字列に数字以外の文字列が含まれる場合、部門比較メモリ部に登録した、部、課、事業部、本部他あらかじめ定めた所定の文字と一致する文字が含まれている場合、その文字列を電話帳アドレス記憶部の部門欄に記憶する手段を有する。

【0024】

本発明の情報ターミナルは社名比較メモリ部を備えており、前記発信手段は、前記発信情報装置として、第2のウィンドウから取り込んだ文字列に数字以外の文字列が含まれる場合、社名比較メモリ部に登録した、社、省、財団、庁、役場他あらかじめ定めた所定の文字と一致する文字が含まれている場合、その文字列を電話帳アドレス記憶部の社名欄に記憶する手段を有する。

【0025】

本発明の情報ターミナルは、発信操作をした場合、発信履歴を電話帳アドレス記憶部の履歴欄に記憶する手段を有する。この発信履歴記憶手段は、電話帳アド

レス記憶部の履歴欄の内容に、操作部から文字を入力し、履歴欄に記憶することによって行うことができる。

【0026】

本発明によれば、発信操作を繰り返す毎に、あるいはコーラIDを取得する毎に、電話帳アドレス記憶部に、その相手先の住所、氏名、社名、部門、役職、メール、FAX等が自動的に記憶されるので、電話帳の内容が自動成長する効果がある。

【0027】

また、電話帳アドレス記憶部に記憶したアドレスによりダイヤルする発信手段を有しているので、発信操作を簡便に行うことができ、伝送効率の向上を図ることができる。

【0028】

また、発信操作をした場合、発信履歴を電話帳アドレス記憶部の履歴欄に記憶する手段を有しているので、発信操作を繰り返すだけで電話帳に顧客対応履歴が残る効果がある。また、前述の発信履歴は、電話帳アドレス記憶部の履歴欄の内容に、操作部から文字を入力して履歴欄記憶することもできる。

【0029】

【発明の実施の形態】

図1は、本発明情報ターミナルの第1の実施の形態を示すブロック図であり、図2は、図1の情報端末の制御回路、電話帳アドレス記憶部及び周辺回路の接続関係を、また、図3は、図1の動作例を示している。

【0030】

第1の実施の形態では、電子手帳やパソコンに代表される情報ターミナル10は、表示部110、記憶部130、入力部140、回線インタフェース部150、並びに、前記表示部110に閉じられた線分により区切られたウインドウを描画する機能及び情報ターミナル全体をコントロールする制御部160からなり、前記表示部が、他のいずれのウインドウより最前面にあるいはツールバーに表示される第1のウインドウ111を描画し、他のウインドウである第2のウインドウ112上で選択した文字列を記憶部130を介して第1のウインドウ111

内に取り込み、第1のウインドウ111内で発信指示を入力部140より待ち、入力部140からの発信指示で、回線インタフェース部160を介してダイヤルをし、同時に第2ウインドウ112上で選択した文字列を電話帳アドレス記憶部121に記憶する。

【0031】

また、第1のウインドウ111内で回線インタフェース部150から得たコーラID情報を表示し、入力部140の指示で、コーラIDを電話帳アドレス記憶部121に記憶する。

【0032】

図2に示すように、制御部160の電話用OS実行回路8には、記憶部130を介して電話帳アドレス記憶部121と命令及び情報のやり取りを行う電話番号及び電話帳分析アプリケーション部13が含まれている。なお、電話用OS実行回路8には、電話番号及び電話帳分析アプリケーション部13以外に複数のアプリケーション部が存在するが、ここではその記載を省略する。

【0033】

この電話番号及び電話帳分析アプリケーション部13は、図3に示すように、制御用OS実行回路7の共通ワークエリアに格納された情報のうち、マウス等でクリックされた文字情報113から電話番号を抽出し、入力部140からの発信指示により、回線インタフェース部150を介してダイヤルするとともに、上記マウス等でクリックした電話番号、住所あるいは氏名等を含む文字情報を記憶部130から電話帳アドレス記憶部121に取り込んで記憶させる。

【0034】

第2のウインドウ112上での文字列選択は、マウスによる文字選択でもカーソルによる文字選択でも良い。これにより、画面表示の電話番号をマウスでなぞるだけで電話できるだけでなく、電話した相手の氏名等を含む文字情報がアドレス帳に自動記述され、アドレス帳を後で入力しなくても、自動的に成長させることができる。

【0035】

回線インタフェース部150は、FAXモデムボードやカードやソフトモデム

あるいは I S D N ターミナルアダプタ等任意の回線インタフェース部として構成することができる。また、入力部 140 は、KEY ボードに限定するものではなく、タッチパネルやマウス指示、情報ターミナル上の他のプログラムからの指示等でも良い。

【0036】

電話帳アドレス記憶部 121 への記憶は、入力部 140 の情報、たとえば、住所、人名、応対メモを付加した記憶でもよい。加えて、電話帳アドレス記憶部 121 への記憶は、入力部 140 の情報による項番指示した場所への記憶でもよい。

【0037】

表示部 110 は、装置内蔵に限定するものではなく、モニタ接続でもよい。また、入力部 140 も、装置内蔵に限定するものではなく、外部接続でもよいし、キーボードや 10 KEY パッドやトラックボールやバーコードリーダあるいは文字読み取り装置等でもよい。

【0038】

図 4 は、本発明の第 2 の実施の形態を示している。第 2 の実施の形態では、電話帳アドレス部 121 へ記憶したアドレスにより、制御部 160 は、回線インタフェース部 150 へダイヤル発信指示するように構成される。電話帳アドレス記憶部 121 から所望の電話番号を検索する方法としては、電話帳アドレス記憶部の内容を順次読み出し、該当するものをマウス等でクリックする方法、あるいは、氏名、住所等を検索キーとして電話番号を検索して読み出し、該当するものをマウス等でクリックする方法等により実施できる。

【0039】

なお、電話帳アドレス記憶部 121 の引用は制御部に限定するものではなく、第 1 のウインドウや第 2 のウインドウのアプリケーションから使用してもよい。例えば、第 2 のウインドウ 112 上に電話帳アドレス記憶部 121 に記憶されているアドレスを読み出して表示させ、その中から選択した文字列を記憶部 130 を介して第 1 のウインドウ 111 内に取り込み、第 1 のウインドウ 111 内で発信指示を入力部 140 より待ち、入力部 140 からの発信指示で、回線インタフ

エース部 160 を介してダイヤルする。同時に第 2 ウィンドウ 112 上で選択した文字列によって電話帳アドレス記憶部 121 を更新してもよい。

【0040】

図 5 は、本発明の第 3 の実施の形態を示しており、図 6 は、図 5 の情報端末の制御回路、電話帳アドレス記憶部及び周辺回路の接続関係を示す図である。

【0041】

この実施の形態では、住所比較メモリ部 170 を備えており、前記発信情報として、第 2 のウィンドウ 112 から取り込んだ文字列に数字以外の文字列が含まれる場合、住所比較メモリ部 170 に登録されている、住所、アドレス、県、市、東京都、他あらかじめ定めた所定の文字と比較し、一致する文字が含まれている場合には、その文字列を電話帳アドレス記憶部 121 の住所欄 122 に記憶するようにアドレス指定される。

【0042】

この第 3 の実施の形態では、図 6 に示すように、制御部 160 の電話用 OS 実行回路 8 に、記憶部 130 を介して住所比較メモリ部 170 及び電話帳アドレス記憶部 121 と命令及び情報のやり取りを行う電話番号及び電話帳分析アプリケーション部 13 が含まれている。この電話番号及び電話帳分析アプリケーション部 13 は、制御用 OS 実行回路 7 の共通ワークエリアに格納された情報のうち、マウス等でクリックされた文字情報から電話番号を抽出し、入力部 140 からの発信指示により、回線インタフェース部 150 を介してダイヤルする制御と、その電話番号を電話帳アドレス記憶部 121 の電話番号欄に記憶するとともに、上記マウス等でクリックした電話番号、住所あるいは氏名等を含む文字情報を住所比較メモリ部 170 に登録されている文字と比較し、一致する文字がある場合には、その文字列を電話帳アドレス記憶部 121 の住所欄 122 に取り込んで記憶する制御を行う。

【0043】

従って、電話帳アドレス記憶部 121 の住所欄 122 には発信操作を行うと自動的に発信先の住所が記憶されるので、発信操作を繰り返すだけで電話帳が自動成長する効果がある。

【0044】

図7は、本発明の第4の実施の形態を示している。この実施の形態では、氏名比較メモリ部171を備えており、前記発信情報として、第2のウィンドウ112から取り込んだ文字列に数字以外の文字列が含まれる場合、名前比較メモリ部171に登録した、名前、Name、氏名、他あらかじめ定めた所定の文字と比較し、一致する文字が含まれている場合には、それ以降の文字列を電話帳アドレス記憶部121の氏名欄123に記憶する手段を有している。制御部160は、図5と同様の構成で実現できる。

【0045】

従って、電話帳アドレス記憶部121の氏名欄123には発信操作を行うと自動的に発信先の氏名が記憶されるので、発信操作を繰り返すだけで電話帳が電話番号だけでなく住所情報と共に氏名情報も自動成長する効果がある。

【0046】

また、比較する情報は、文字に限定するものではなく、図や記号や第2のウィンドウ内の場所指示によって行ってもよい。

【0047】

図8は、本発明の第5の実施の形態を示している。この実施の形態では、役職比較メモリ部172を備えており、前記発信情報として、第2のウィンドウ112から取り込んだ文字列に数字以外の文字列が含まれる場合、役職比較メモリ部172に登録した、部長、課長、担当他あらかじめ定めた所定の文字と比較し、一致する文字が含まれている場合には、それ以前の文字列を電話帳アドレス記憶部121の役職欄124に記憶する手段を有している。

【0048】

従って、電話帳アドレス記憶部121の役職欄124には発信操作を行うと自動的に発信先の役職が記憶されるので、発信操作を繰り返すだけで電話帳が電話番号だけでなく役職情報も自動成長する効果がある。

【0049】

図9は、本発明の第6の実施の形態を示している。この実施の形態では、メール比較メモリ部173を備えており、前記発信情報として、第2のウィンドウ1

12から取り込んだ文字列に数字以外の文字列が含まれる場合、メール比較メモリ部173に登録した、@、E-Mail、メール、他あらかじめ定めた所定の文字と比較し、一致する文字が含まれている場合には、その文字列を電話帳アドレス記憶部のメール欄125に記憶する手段を有している。

【0050】

従って、電話帳アドレス記憶部121のメール欄125には発信操作を行うと自動的に発信先のメールが記憶されるので、発信操作を繰り返すだけで電話帳が電話番号だけでなくメール情報も自動成長する効果がある。

【0051】

図10は、本発明の第7の実施の形態を示している。この実施の形態では、FAX比較メモリ部174を備えており、前記発信情報として、第2のウィンドウ112から取り込んだ文字列に数字以外の文字列が含まれる場合、FAX比較メモリ部174に登録した、FAX、ファクシミリ他あらかじめ定めた所定の文字と比較し、一致する文字が含まれている場合には、それ以前の文字列を電話帳アドレス記憶部のFAX欄126に記憶する手段を有している。

【0052】

従って、電話帳アドレス記憶部121のFAX欄126には発信操作を行うと自動的に発信先のメールが記憶されるので、発信操作を繰り返すだけで電話帳が電話番号だけでなくFAX情報も自動成長する効果がある。

【0053】

図11は、本発明の第8の実施の形態を示している。この実施の形態では、部門比較メモリ部175を備えており、前記発信情報として、第2のウィンドウ112から取り込んだ文字列に数字以外の文字列が含まれる場合、部門比較メモリ部175に登録した、部、課、事業部、本部他あらかじめ定めた所定の文字と比較し、一致する文字が含まれている場合には、その文字列を電話帳アドレス記憶部の部門欄127に記憶する手段を有している。

【0054】

従って、電話帳アドレス記憶部121の部門欄127には発信操作を行うと自動的に発信先の部門が記憶されるので、発信操作を繰り返すだけで電話帳が電話

番号だけでなく部門情報も自動成長する効果がある。

【0055】

図12は、本発明の第9の実施の形態を示している。この実施の形態では、社名比較メモリ部176を備えており、前記発信情報として、第2のウィンドウ112から取り込んだ文字列に数字以外の文字列が含まれる場合、社名比較メモリ部176に登録した、社、省、財団、庁、役場他あらかじめ定めた所定の文字と比較し、一致する文字が含まれている場合には、その文字列を電話帳アドレス記憶部の社名欄128に記憶する手段を有している。

【0056】

従って、電話帳アドレス記憶部121の社名欄128には発信操作を行うと自動的に発信先の社名が記憶されるので、発信操作を繰り返すだけで電話帳が電話番号だけでなく社名情報も自動成長する効果がある。

【0057】

図13は、本発明の第10の実施の形態を示している。この実施の形態では、発信操作をした場合、制御部160より発信履歴を電話帳アドレス記憶部121の履歴欄129に記憶する手段を有しており、発信操作を繰り返すと自動的に電話帳に顧客対応履歴が残るようになっている。

【0058】

前述の発信履歴は、電話帳アドレス記憶部121の履歴欄129の内容に、操作部140から文字を入力したときに履歴欄記憶する手段を有し、発信操作を繰り返すだけで電話帳で顧客対応履歴を残すように構成することもできる。

【0059】

なお、本発明を、主に発信の場合を例にして記述してきたが、着信や保留時に取得したコーラIDや、追加ダイヤル他の電話番号も電話帳アドレス記憶部121に記憶することが可能であることはいうまでもない。

【0060】

図14は、本発明の情報端末の他の実施の形態を示すブロック図である。図14において、CPU190は、ROM191に格納されたプログラムに基づいて情報端末全体を制御するコンピュータであり、ワークエリア192は、プログラ

ム実行中に使用される命令やデータの格納領域である。

【0061】

ROM 191 に記憶されたプログラムは、CPU 190 によって読み出される制御用 OS および電話用 OS である。制御用 OS の動作は、図 2 の制御用 OS 実行回路 7 で実行される処理に相当し、電話用 OS の動作は、図 2 の電話用 OS 実行回路 8 の電話番号及び電話帳分析アプリケーション部 13 を含む各アプリケーション部が実行する処理に相当する。また、電話用 OS のプログラムは、インストールによって制御用 OS の実行プログラム中に組み込まれる。

【0062】

次にその動作について説明する。CPU 190 による制御用 OS が実行されているときに、表示メモリ 5 を介して表示画面に表示されている第 2 のウィンドウ 112 から、文字情報 113 を反転表示や枠による範囲指定によって抽出する。これにより、範囲指定内の文字情報が CPU 190 の共通ワークエリアに格納される。その後、マウスによるクリック等の操作がなされると、CPU 190 は、電話用 OS 実行回路 8 の電話番号及び電話帳分析アプリケーション部 13 と同様の制御により、文字情報の中から電話番号を抽出して表示メモリ 5 に出力する。これにより、電話発信用ウィンドウ（第 1 のウィンドウ）111 の表示部 116 に抽出された電話番号が表示される。

【0063】

CPU 190 は、発信指示があると、第 1 のウィンドウ 111 に表示された電話番号によって電話回線 L に対し発信するよう回線インタフェース 1 を制御する。同時に、第 2 ウィンドウ 112 内の範囲指定された文字情報を電話帳アドレス記憶部 121 に転送して記憶する。記憶の方法としては、図 1 ～図 13 に示す各実施の形態の何れかあるいはそれらの組合せ等適宜の形態とすることができる。

【0064】

【発明の効果】

本発明によれば、画面表示をなぞるだけで電話できると共に、電話帳アドレス記憶部が発信操作を繰り返す毎に、電話番号帳として自動的に充実させることができる。

【0065】

また、メール等の最後の記述やWebの問い合わせ欄にある、電話番号、社名、住所、FAX欄を、ダイヤル時に、同時にマウスでなぞるだけで電話できると共に、発信操作を繰り返す毎に、住所録やアドレス帳を成長させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の実施の形態を示すブロック図である。

【図2】

図1の情報端末の制御回路、電話帳アドレス記憶部及び周辺回路の接続関係を示す図である。

【図3】

図1の動作例を示す頭である。

【図4】

本発明の他の実施の形態を示すブロック図である。

【図5】

本発明の他の実施の形態を示すブロック図である。

【図6】

図5情報端末の制御回路、電話帳アドレス記憶部及び周辺回路の接続関係を示す図である。

【図7】

本発明の他の実施の形態を示すブロック図である。

【図8】

本発明の他の実施の形態を示すブロック図である。

【図9】

本発明の他の実施の形態を示すブロック図である。

【図10】

本発明の他の実施の形態を示すブロック図である。

【図11】

本発明の他の実施の形態を示すブロック図である。

【図 12】

本発明の他の実施の形態を示すブロック図である。

【図 13】

本発明の他の実施の形態を示すブロック図である。

【図 14】

本発明の他の実施の形態を示すブロック図である。

【図 15】

従来例を示すブロック図である。

【図 16】

従来例の動作を説明するための図である。

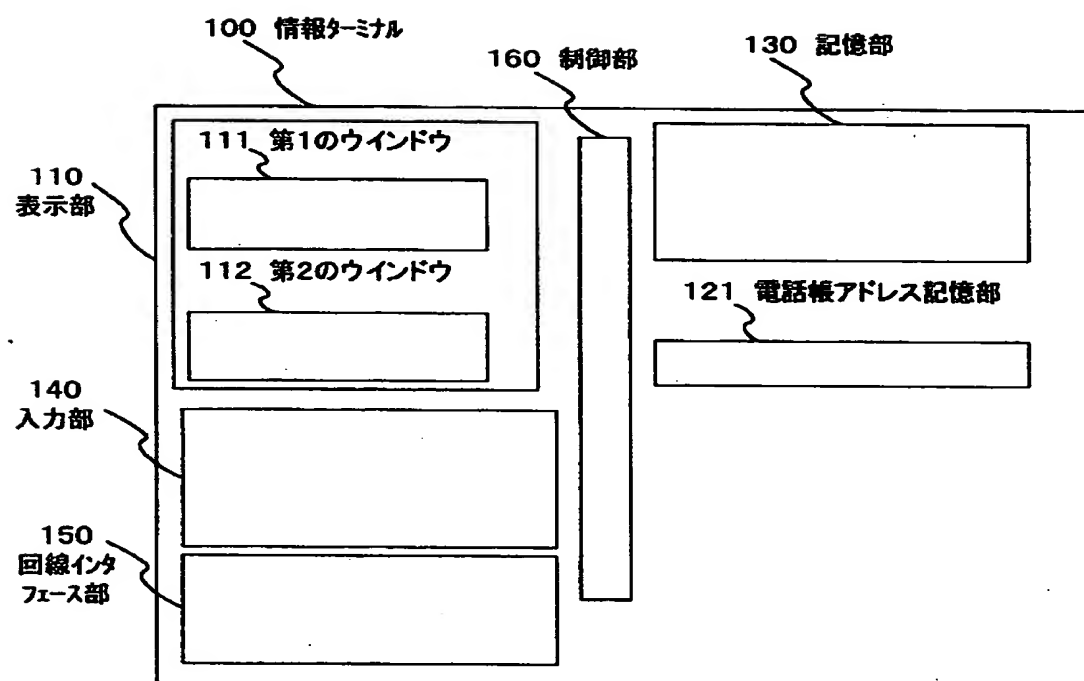
【符号の説明】

- 100 情報ターミナル
- 110 表示部
- 111 第1のウインドウ
- 112 第2のウインドウ
- 121 電話帳アドレス記憶部
- 122 住所欄
- 123 氏名欄
- 124 役職欄
- 125 メール欄
- 126 FAX欄
- 127 部門欄
- 128 社名欄
- 129 履歴欄
- 130 記憶部
- 140 入力部
- 150 回線インタフェース部
- 160 制御部

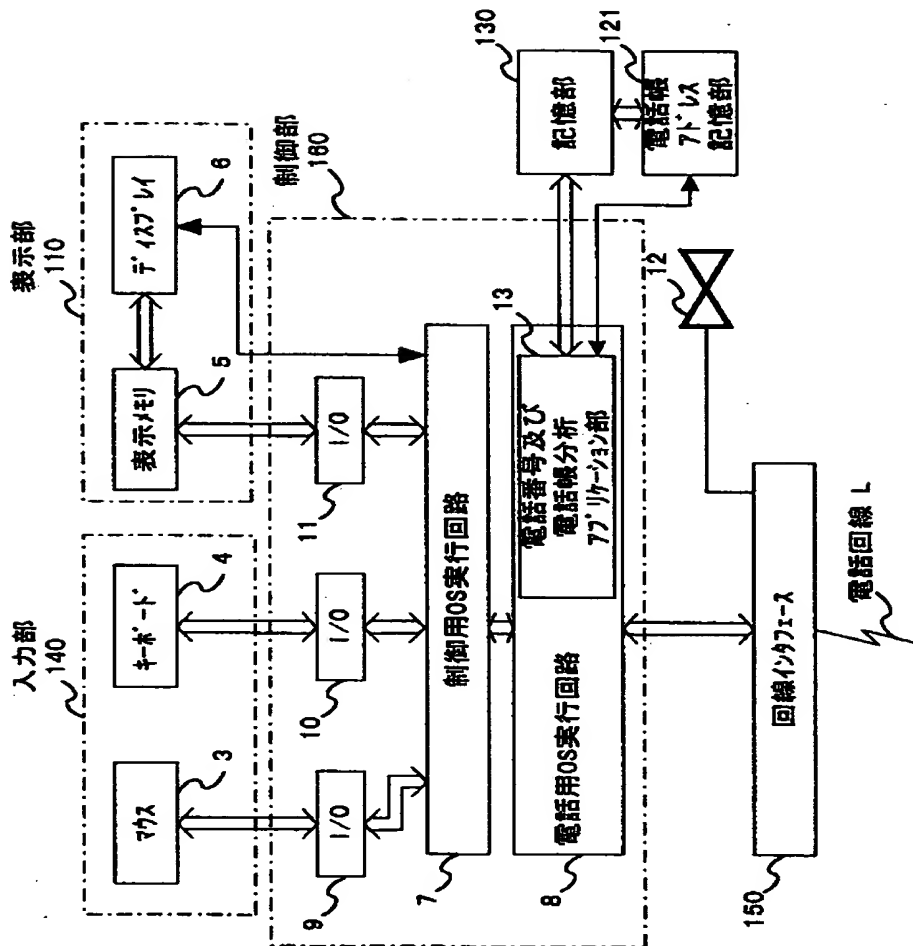
- 170 住所比較メモリー部
- 171 氏名比較メモリー部
- 172 役職比較メモリー部
- 173 メール比較メモリー部
- 174 FAX比較メモリー部
- 175 部門比較メモリー部
- 176 社名比較メモリー部
- 190 CPU
- 191 ROM
- 192 ワークエリア

【書類名】 図面

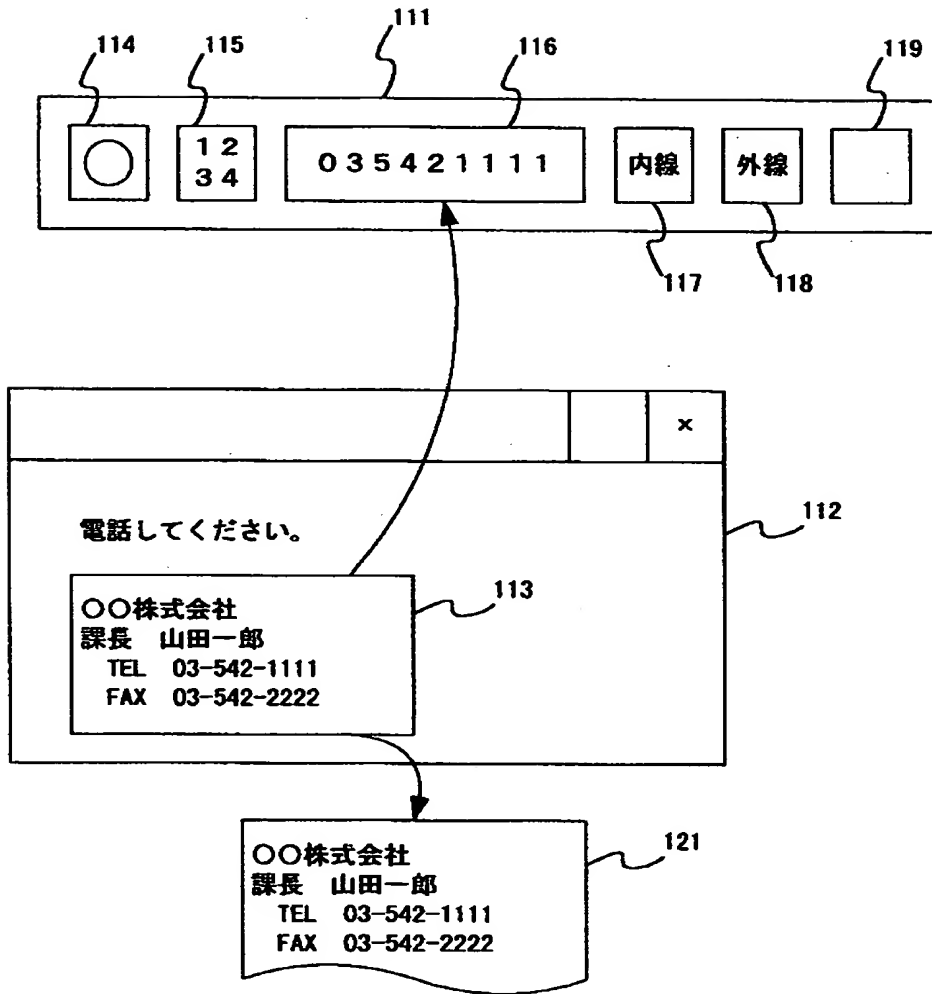
【図 1】



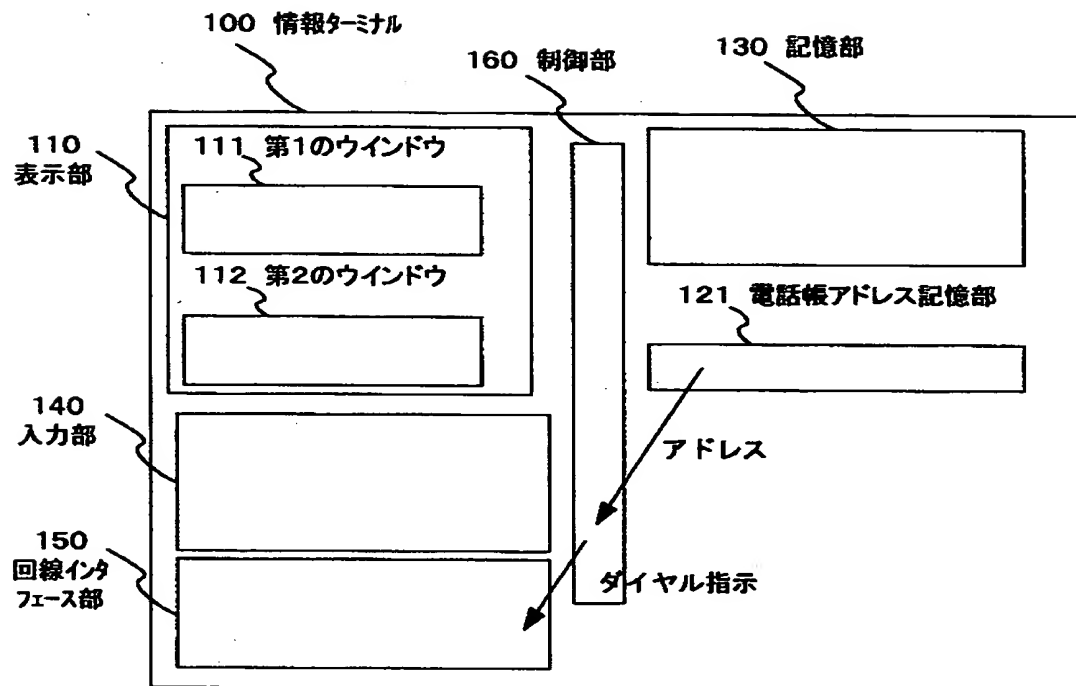
【図 2】



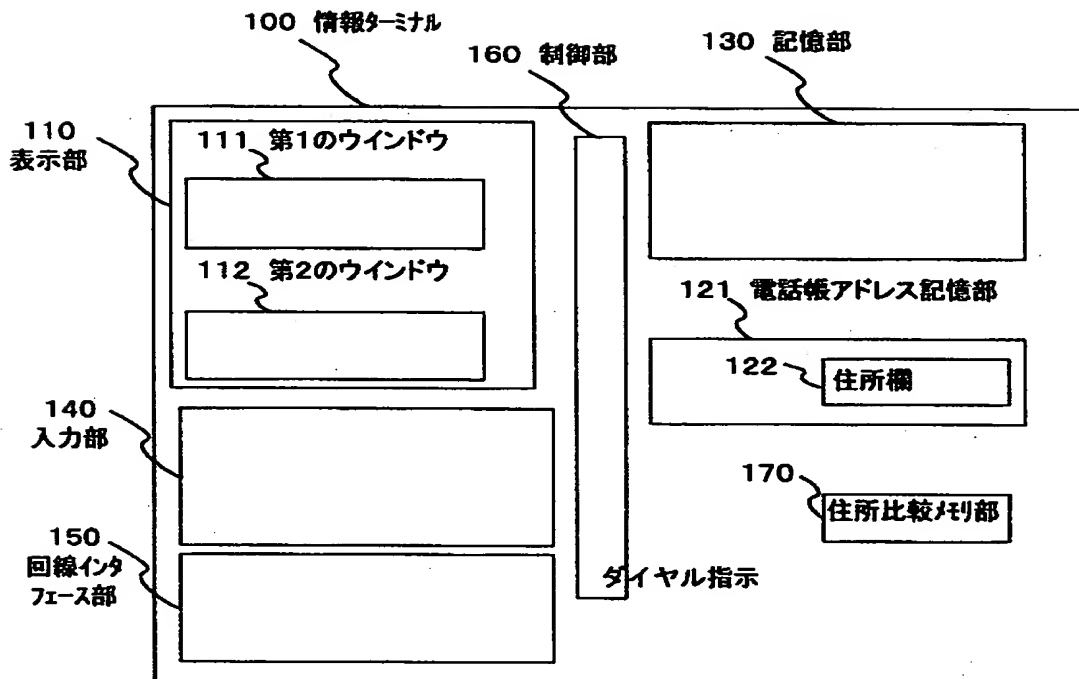
【図 3】



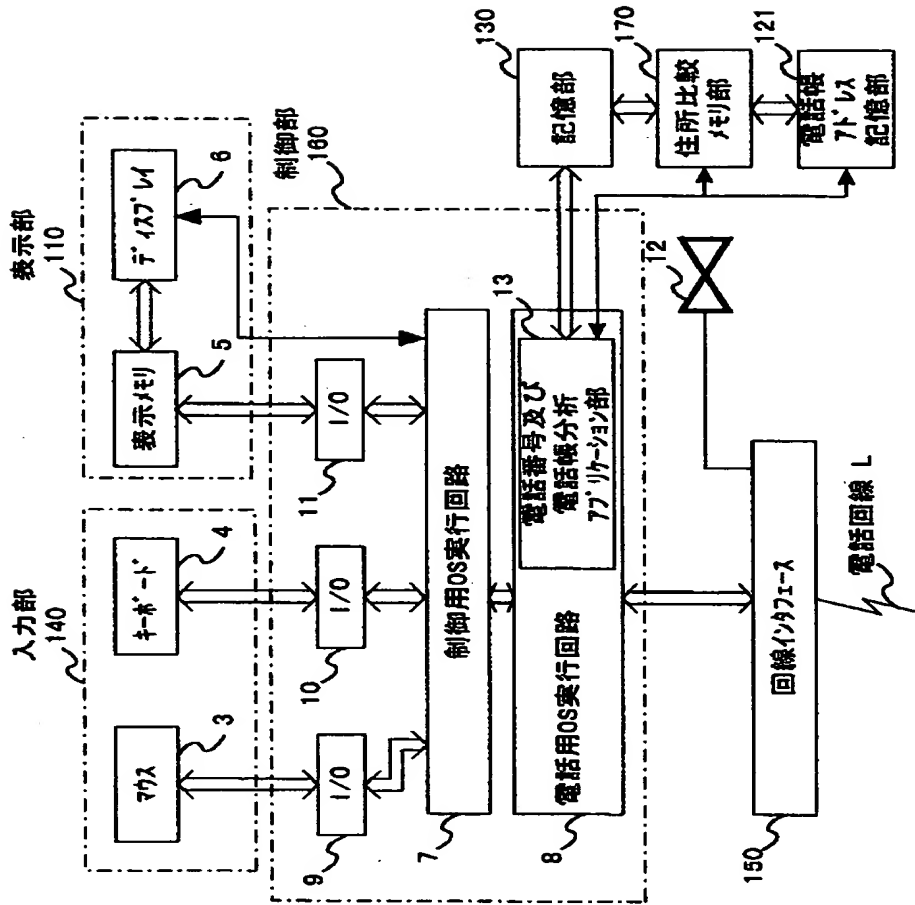
【図 4】



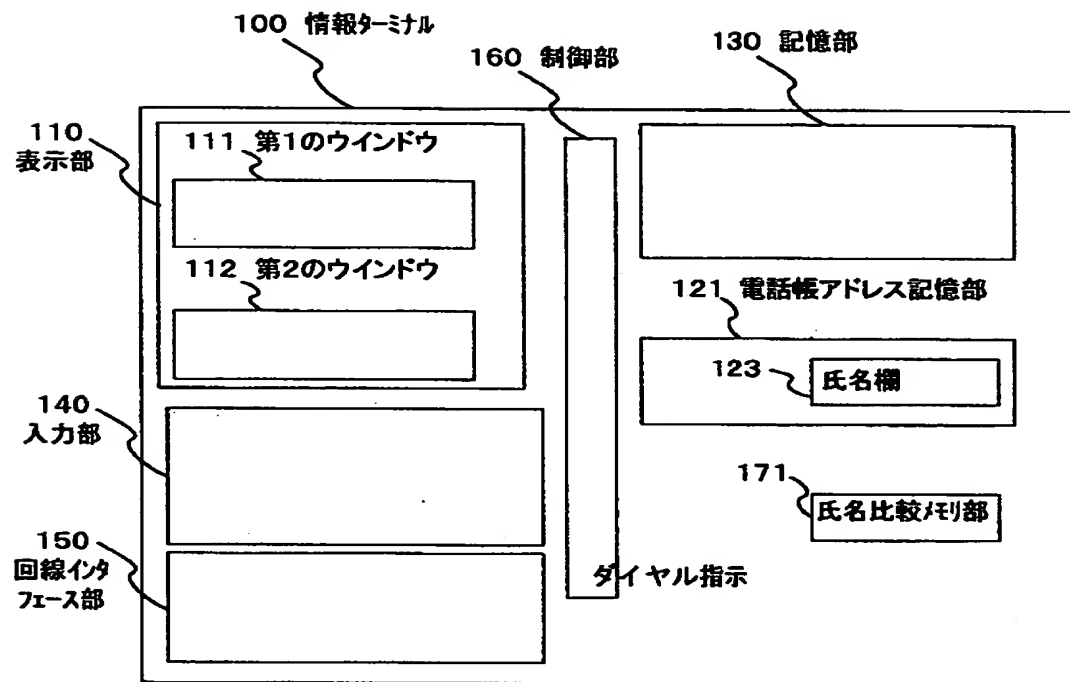
【図5】



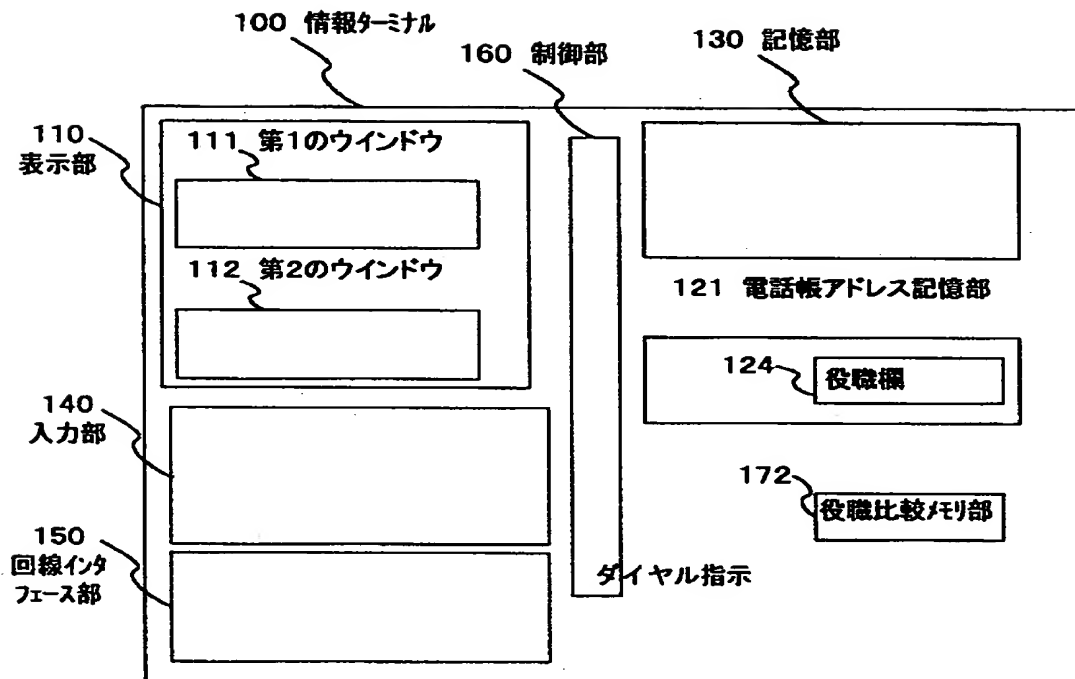
【図 6】



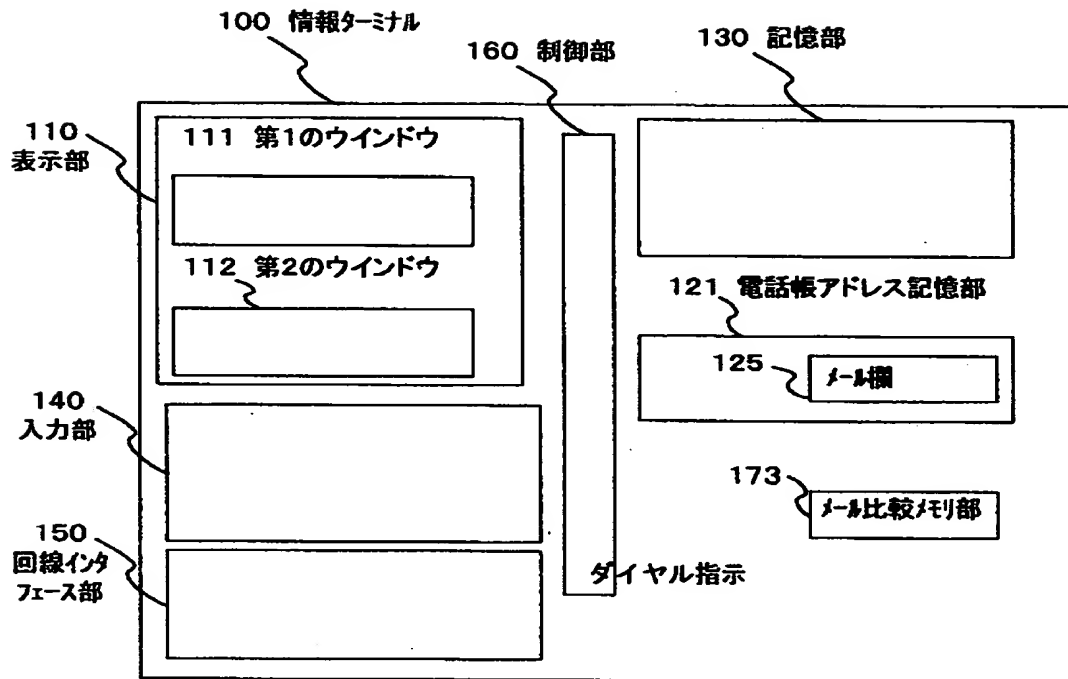
【図 7】



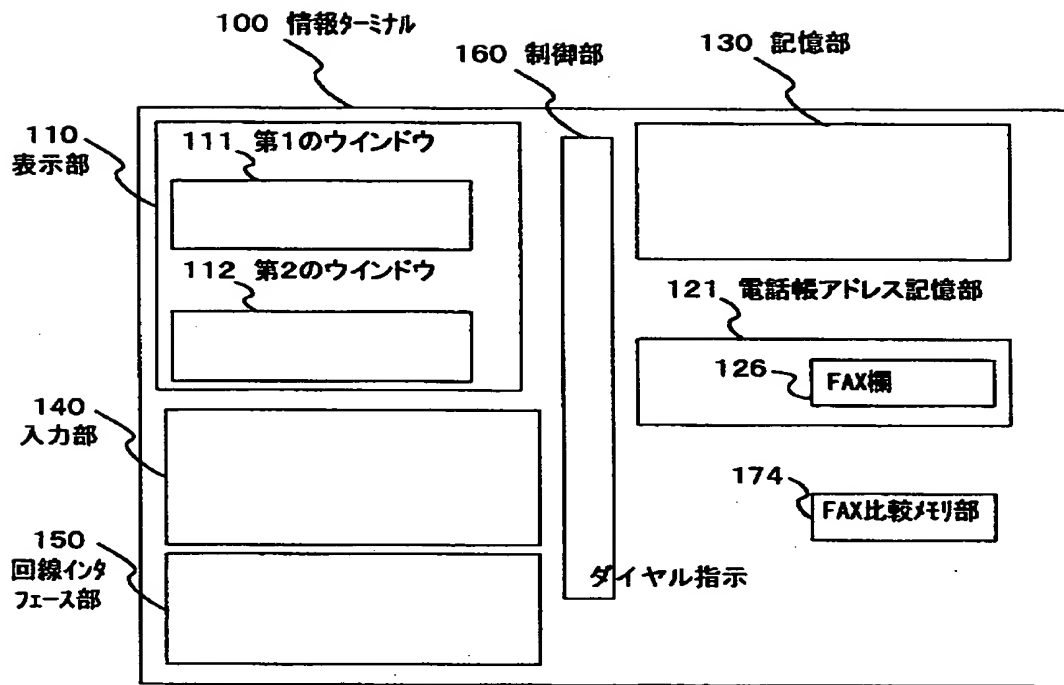
【図 8】



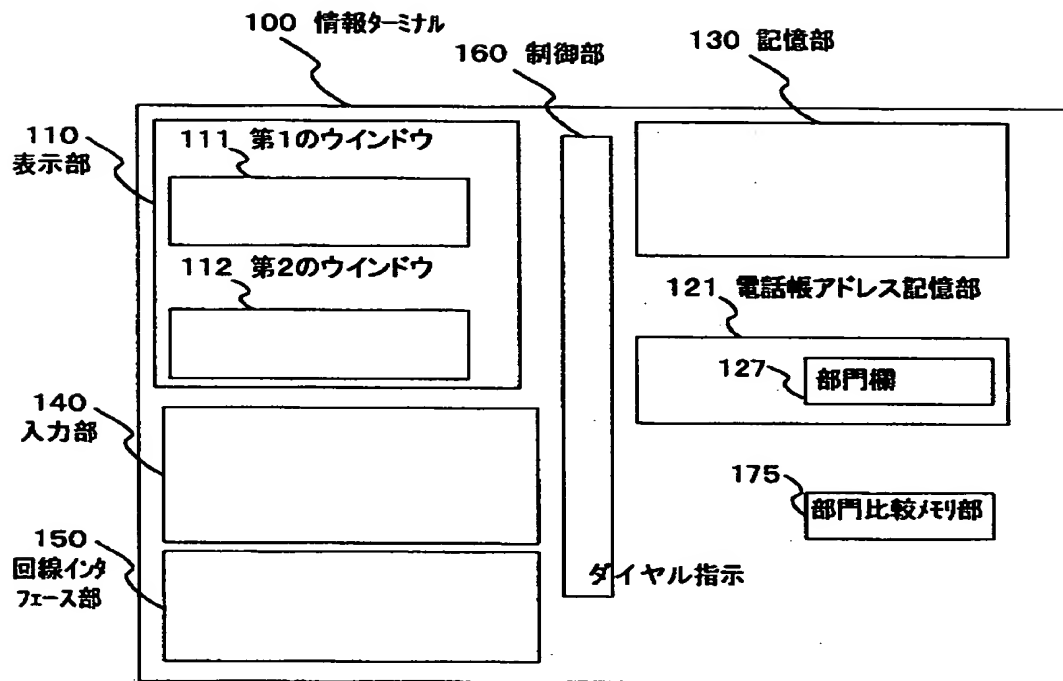
【図 9】



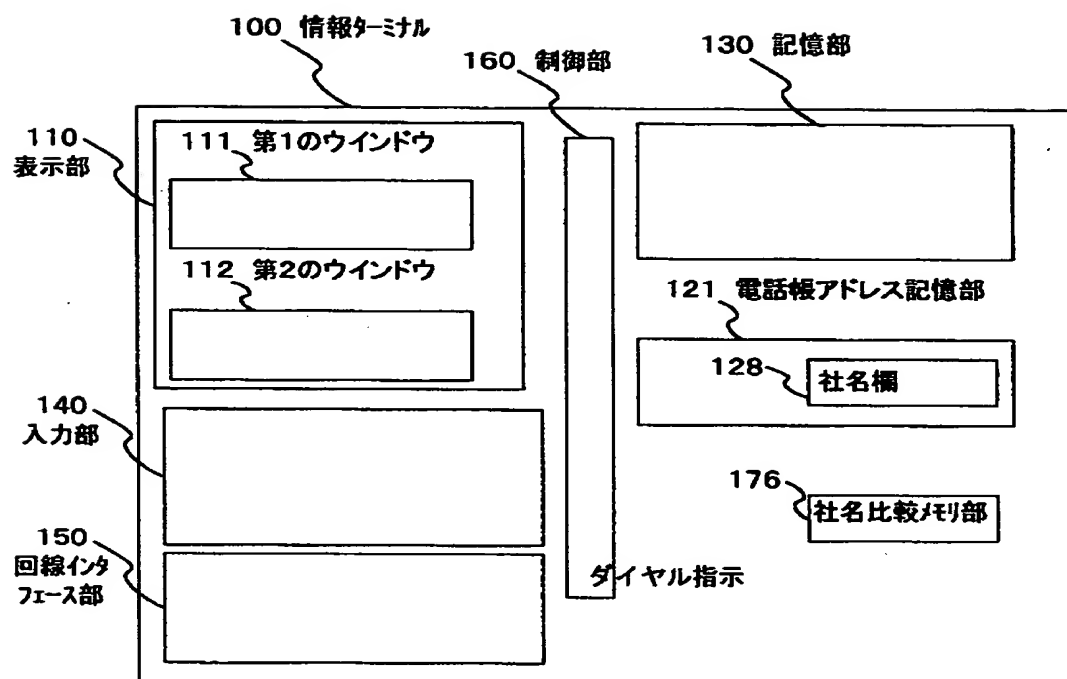
【図 10】



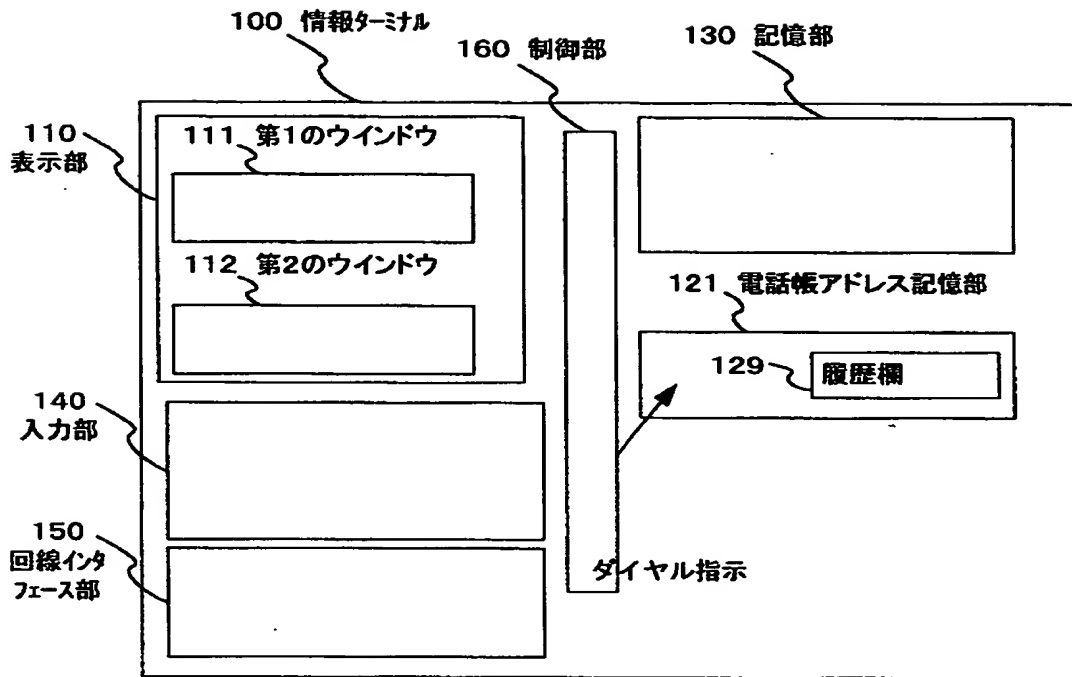
【図 11】



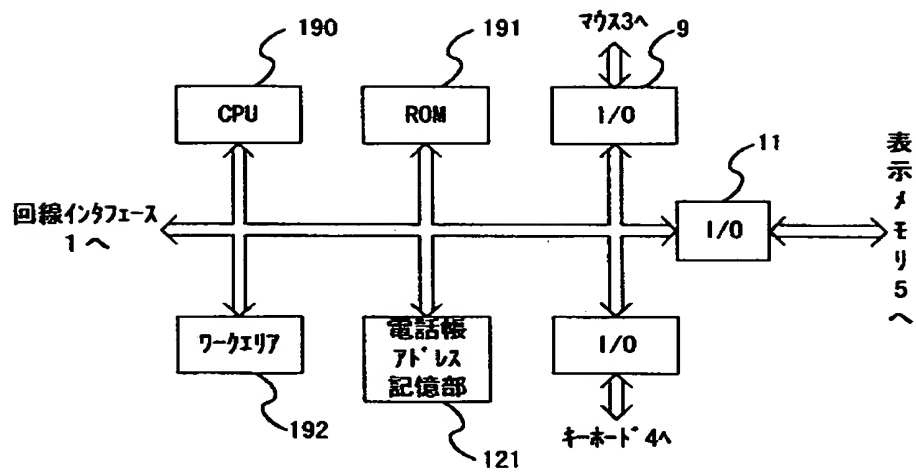
【図 12】



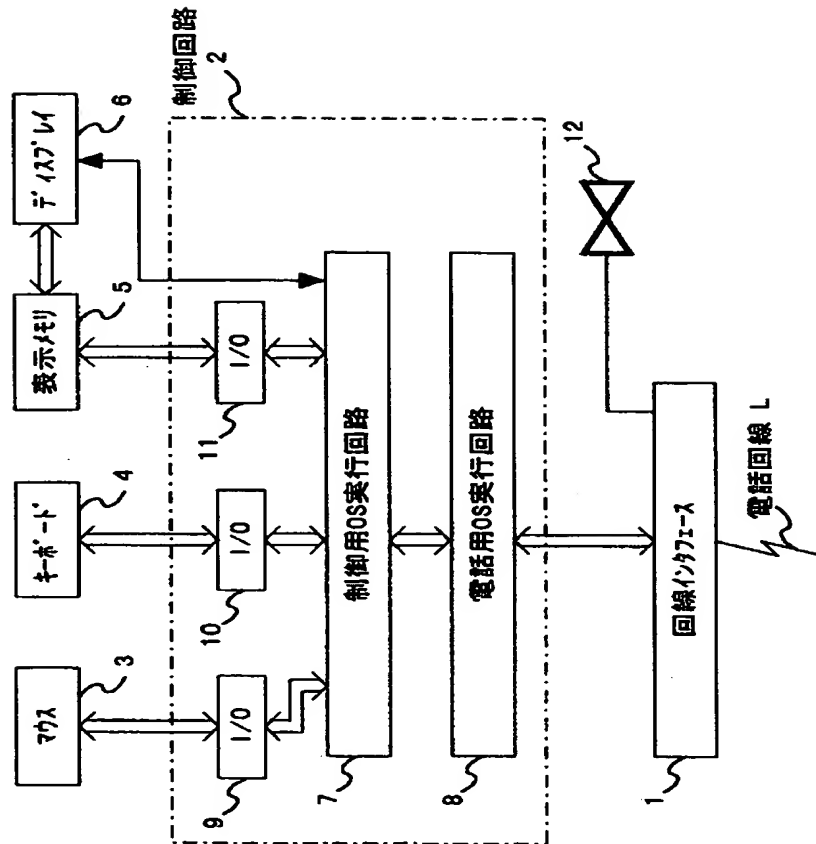
【図 13】



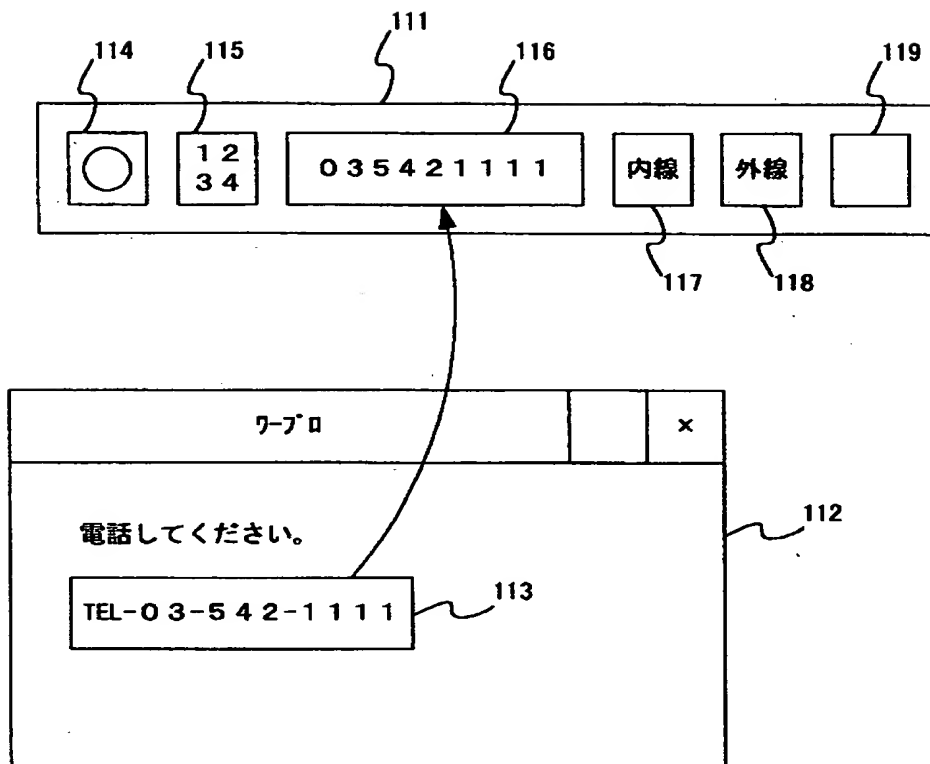
【図 14】



【図 15】



【図 16】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 情報端末装置の電話帳情報を効率的に管理し、操作性の向上を図る。

【解決手段】 情報ターミナル100は、表示部110、記憶部130、入力部140、回線インタフェース部150、並びに、前記表示部110に閉じられた線分により区切られたウインドウを描画する機能及び情報ターミナル全体をコントロールする制御部160からなり、前記表示部が、他のいずれのウインドウより最前面に表示される第1のウインドウ111を描画し、他のウインドウである第2のウインドウ112上で選択した文字列を記憶部130を介して第1のウインドウ111内に取り込み、第1のウインドウ111内で発信指示を入力部140より待ち、入力部140からの発信指示で、回線インタフェース部160を介してダイヤルをし、同時に第2ウインドウ112上で選択した文字列を電話帳アドレス記憶部121に記憶する。

【選択図】 図1

【書類名】 職権訂正データ
【訂正書類】 特許願

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】 000004237
【住所又は居所】 東京都港区芝五丁目7番1号
【氏名又は名称】 日本電気株式会社

【代理人】 申請人

【識別番号】 100105511
【住所又は居所】 東京都港区新橋6-11-8 福森ビル3F 燦（さん）特許事務所
【氏名又は名称】 鈴木 康夫

【代理人】

【識別番号】 100109771
【住所又は居所】 東京都港区新橋6-11-8 福森ビル3F 燦（さん）特許事務所
【氏名又は名称】 臼田 保伸

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000004237]

1. 変更年月日	1990年 8月29日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都港区芝五丁目7番1号
氏 名	日本電気株式会社